JR WEST 西労組 UNION ニュース
No.4
(通算)No.588
2025.12.19
JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合
本部／〒530-0012 大阪市北区芝田二丁目一番十八号（西阪急ビル9F）
TEL（〇六）六三七五－九八八九（代）
FAX（〇六）六三七三－四一三三
●発行責任者／羽野敦之
●編集責任者／白井聖二

JR西労組中央本部青年女性委員会 第35回定期委員会（発言集約要旨）

青女活動はJR西労組運動の入り口であり原点 みんなで〝仲間づくりと助け合い〟の輪を拡げよう

JR西労組中央本部青年女性委員会は、2025年10月13日(月)～14日(火)に「オリエンタルホテル福岡博多ステーション」において、約140名参加のもと「第35回定期委員会」を開催した。冒頭、準備地本を代表して後藤委員長(福岡地本)が歓迎の挨拶を行い、議長に砂口委員(米子地本)、尾潟委員(福岡地本)の両名を選出し、議事を進行した。

常任委員会を代表して、李澤委員長が「安全」・「政治活動」・「春闘・労働協約改訂交渉」・「組織・青女活動」について挨拶をした。また多くのご来賓の方々にもご臨席を賜り、激励の挨拶を頂いた。その後、活動経過報告、活動方針(案)の提起を行った。

2日目には全体質疑を行い、各地本・総支部や職場を代表して31名の委員から、82項目について意見が出され活動方針を補強した。その後、メインスローガン、サブスローガン、活動方針等が満場一致で採択された。

役員改選では、2年間青年女性委員会を牽引してきた李澤委員長をはじめ、宮崎副委員長、藤田副委員長など計14名が退任し、新たに高杉委員長、池田副委員長、古屋副委員長を中心とした役員体制が発足した。最後に高杉委員長の団結ガンバローで第35回定期委員会は閉会した。

同時に開催した機関紙コンクールでは、地本の部では、西バス地本「次、とまります。」、支部の部では、大阪地本奈良支部「大和猛る」が最優秀賞を獲得した。

全体質疑

倉澤委員（福岡地本）

●博多統括駅の要員不足について。駅務採用は若干名のため離職があると要員が厳しい。業務量も減っておらず、むしろ増えている。駅で社員育成をしても乗務員採用は車掌区に出ていく。駅における今後の非対面推進の方針と、具体的な要員の推移予測等の開示が無いことに不安を感じているため明らかにされたい。

●出張時の日当旅費の増額について。1,600円の支給はあるが、出張など会社経費で負担されている場合は日当不支給となる。研セ食堂昼食590円を以てして不支給は研修に対してマイナスイメージ。公務員は2,200円が一般的。研修での昼食有無に関わらず支給対象とされたい。また、日当増額について強く要望する。

●日当の同一構内不支給について。同一構内では、何時間働いても日当が支給されない。構内作業の方がしんどい。特に車両所内は触車や熱中症のリスクは高い。見直しを要望。

●動物遺骸等処理手当について。適用範囲拡大により汚物関係機器の取替時は支給されているが、配管つまり取り除き作業などの機器の脱着作業は対象外。配管つまり取り除き作業など、機器取替時以外も対象とされたい。

●車両系統におけるメンテナンス手当について、車両整備準則に該当する作業には手当対象となっているが、間接社員は同じ作業でも支給対象外である。また、青女世代が作業長や作業責任者に指定されているが、依然と比べて業務量は増しているのに手当はない。安全の確保や指揮など職責の重さがある。手当の適用範囲の拡大と、作業責任者手当の新設を。

岩谷委員（大阪地本）

●女性の採用数が増える一方で、設備や担務が足りていない。女性の受け入れ態勢を整えてからの採用を。

●住宅補給金について、会社が一部補填するが、40歳未満は23,000円。JR東海は、基本的に家賃の半額で上限は45,000円。働き方改革も大切であるが、住宅補給金の見直しを。

勝岡委員（広島地本）

●組織について。常任委員会は17名だが約半数は広島第二支部選出。山口エリアのワンマン化により乗務員採用となると広島第二支部となる。山口エリアの役員が少なくなり役職の掛け持ちが発生している。他地本でも同様の事象はないか。

●駅のゴミ箱について、列車やホームにゴミが散乱している。車掌が折り返しで清掃しているが、ゴミ箱が撤去されており、捨てることができない。折り返し駅には設置いただきたい。

●エリア手当について。インバウンドと併せて、ミナモア開業・広島電鉄の乗り入れが始まり来場者数も万博に匹敵。広島エリアのエリア手当3%はいかがなものか。駅係員の業務量はタブレット導入しても確実に増えている。

●大阪・関西万博一時金を求める。ミナモアの開業もあり、多くのお客様にご利用されている。

●嘔吐物処理について。排泄物もあり、気分が悪くなる。掃除用の手袋など支給されているが、臭いや感染リスクもあるため手当の新設を。

●医療系統ユースフォーラムについて、二葉の里病院となったが医療系統ユースフォーラムに参加した組合員からはまた参加したいとの声。

神田委員（京都地本）

●安全設備について。草津駅の上り、下りの乗降終了表示の音を聞き間違えてドアを開閉してしまう事象が多発。音ではなく、リズムや種類を変更して違いを分かりやすくしていただきたい。また、トレインアナウンス、自動放送について。嵯峨野線を走る列車全車両のジャックがないと駅間の放送でアナウンスが不十分となる。

●LGBTQについて。制度のみであり現場での理解はない。制服や宿泊設備を。

●カスハラについて、様々対策しているがSNS投稿・駅の窓口で名前を覚えられ指名されることも。氏名札を実名でないものにしていただきたい。

尾本委員（広島地本）

●青年女性委員会のあり方について。組合活動の入口であるべきだが実際は基本組織の役員を兼務している現状。JR西労組の運営規則を改訂すれば基本組織内で役員をすることはないのでは。

●乗務員見習い期間について。乗務員の見習い中は年休を取得し難く、その際に組合の動員要請が他の組合員に偏る。乗務員職場以外にも見習いはあるため優遇されるのはいかがなものか。

●春闘について。他労組は一時金20万円を要求。コロナ禍で減額されたボーナスを取り返すためにも取り組んでいただきたい。また、賃金実態調査の結果からも系統間の給与格差は広がったままである。世界一安全な鉄道を作るには、系統間の賃金格差をなくすべき。労働組合の必要性を話す中で、JR東日本に負けない存在意義を示すべき。

●JR労働界の動向と民主化闘争について。JR北労組の支援に行っているが、北海道は総連系が8割、東日本は未加入者が8割。JR東日本の8割をJR連合に入れるべきでは。そのためにもイーストユニオンにもっと力を入れるべきでないか。今後の支援のあり方を教えていただきたい。また、地本青女定期委員会の組休の申請がとれるようになった。ユニオンショップ協定の時期がきているのではないか。

●超勤時間の取り扱いについて。管理駅となり中心駅まで移動時間が発生するようになったが、その際の移動時間は超勤時間に含まれていない現状。連合は労働時間として扱うべきとしているがJR西労組の見解は?

二口委員（金沢地本）

●安全について、福知山線列車事故を発生させてしまった企業として学ぶべき。事故について学ぶ時間を設けるとともに、安全お守り手帳を活用していく。

●カスハラについて、お客様からの暴言で退社された。ポスター掲示をしているが、件数は減少したのか。

●社員運用について、並行在来線への出向に行っている組合員が多い。北陸新幹線もGOA2決定。出向が終わったとき、自動運転になったときの社員運用が不安。帰れる職場はあるのか。

●サンダーバード、しらさぎ、新快速のトイレ故障、車内電話機の故障がなかなか修理されない。CSの観点からも早急に改善していただきたい。

●車内料金の新設について、所持せず乗車する客が多い。事前にネットで購入、窓口で並んだ客と同額は如何なものか。高く設定してもいいのでは?

足立委員（和歌山地本）

●汚物処理について、乗務中の車内での汚物処理で苦慮している。動物の死骸処理では1,000円がついているが、気持ち面でも手当を新設いただきたい。

●大型荷物について、車両改善要求でも声を挙げているが、なかなか改善されていない。インバウンドのお客様のスーツケースが乗降するドア前に荷物が置いてあり、津波からの避難もできない。会社の方針に現場が追い付いていない。荷物置きの調整席を作る目的で、調整席の数を報告しているが、設置するまでに何かしらの対策ができないか。683系では、座席の一部を荷物置きとすることからも、同形式の「くろしお」にも設置できるのでは。

寺岡委員（岡山地本）

●新入社員の教材配布について、電気ではファーストステップという研修があり、2,3箇月研セに入る。そこで例年であればマニュアルを配布していたが、現在は支給されていない。ペーパレスであれば、書き込んだものが消える。配布をお願いしたい。

●熱中症対策について、ポロシャツの支給をお願いする。40℃を超える。快適性が増し、体温が下がる。アンダーウェアを着用すれば良いのでは。

●新入社員の研修について、コロナ禍以降、研修が緩くなっているのではないか。厳しさがあったが、社会人としての基本的な規律がない。ハラスメントへの配慮は必要であるが、一定の厳しさを持った指導をお願いする。

安田委員（神戸地本）

●うれシートについて。平日夜間の通勤時間帯に指定席を設定しているのはおかしいとお客様から苦情。無料エリアに人が殺到するためドア挟み、また駆け込み乗車によって車掌としても気持ち的に焦ってしまう。10両にするか駅係員・間接社員の支援を検討いただきたい。

●倒木、異音感知について。運転士が現地確認にて異常なしと判断し運転再開した後でも保線社員による現地確認は必要なのか。運転士とのミーティング5での確認など他の方法に置き換えることができないか。

●MVについて。駅の窓口縮小に伴い、MVで売れない商品については近接の駅の窓口に集中し業務量に偏り。MVの機能改修を図っていただきたい。

松本委員（中バス地本）

●バスフォーラムについて、継続をお願いする。

●中バスの青女は12名、勤務形態は不規則。人口減少や経営環境は厳しい。組合活動への参加は理解するが、プライベートの時間は少なく、休みが少ない分、家族との時間を大切にして欲しい。存続のためのアドバイスが欲しい。

倉澤委員

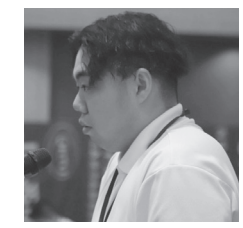
勝岡委員

尾本委員

寺岡委員

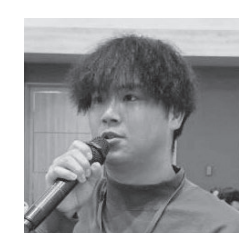
松本委員

岩谷委員


神田委員

二口委員

足立委員


安田委員